

1. 大きな数 ①

名前

組 番

ねらい

1億の位までの数の読み方、表し方を理解する。

考技(知)

① 下の人数は都道府県の人口を表したものです。(2010年 国勢調査より)

ア 東京都 1 3 1 5 9 3 8 8 人

イ 福岡県 5 0 7 1 9 6 8 人

ウ 大阪府 8 8 6 5 2 4 5 人

エ 北海道 5 5 0 6 4 1 9 人

① それぞれの人口の読み方を下の□の中に書きましょう。

ア

千三百十五万九千三百八十八

イ

五百七万九千九百六十八

ウ

八百八十六万五千二百四十五

エ

五百五十万六千四百十九

② 人口の多い順に記号を書きましょう。

ア

→

ウ

→

エ

→

イ

② 次の数を数字で□の中に書きましょう。

① 三億七千五百万六十九

3 7 5 0 0 0 0 6 9

② 1億を7こ、1万を830こ、10を560こあわせた数

7 0 8 3 0 5 6 0 0

③ 次の () の中にはあてはまる文字を、□の中にはあてはまる数字を書きましょう。

● 9 3 0 2 4 0 1 6 7 の (1 億) の位の数字は9です。

● 9億は (1 億) が9こ、1000万が 90 こ、100万が 900 こあることを

表しています。

2

1. 大きな数 ②

名前

組 番

ねらい

千億の位までの数の読み方、表し方、数の構成を理解する。

考技 ③

① 次の数を読み、漢字で書きましょう。

① 7 3 5 2 0 0 0 0 0 0

七十三億五千二百万

② 1 6 0 8 5 0 3 0 0 9 0

百六十億八千五百三万九十

③ 8 0 2 5 0 0 0 4 7 0 6 7

八千二十五億四万七千六十七

② 次の数を数字で書きましょう。

① 八百五億三千万六百

8 0 5 3 0 0 0 0 6 0 0

② 八千九億三百五十万七十一

8 0 0 9 0 3 5 0 0 0 7 1

③ 千億を2こ、百億を6こ、
十億を5こ、千万を7こ、
百万を4こ、一万を3こ、
あわせた数

2 6 5 0 7 4 0 3 0 0 0 0

③ 次の () の中にあてはまる文字を、□の中にはあてはまる数字を書きましょう。

① (一億) の10倍の数を十億、十億の10倍の数を (百億)

百億の10倍の数を (千億) といいます。

② 9 3 0 2 4 0 1 6 7 0 8 5 の千億の位の数は で、

3は (百億) の位の数字です。

3つの0は、それぞれ左から順に (十億) の位、 (百万) の位、

(百) の位の数字です。



3

1. 大きな数 ③

名前

組 番

ねらい

千兆の位までの数の読み方、表し方、数の構成を理解する。

③ 技知

① 次の問題に答えましょう。

- ① 位の名前を漢字で正しく書きましょう。
- ② 五千三百八十一兆七千四百六億二百十九万六千十四を数字で書きましょう。
- ③ 七百三十六兆千八百五十万六千五百九を数字で書きましょう。
- ④ 100兆を4こと、10兆を9こと、1兆を5こと、1000億を3こと、10億を6こと、1万を7こあつめた数を数字で書きましょう。
- ⑤ 1000兆を8こと、100兆を2こと、10兆を9こと、1000万を4こと、100万を6こと、100を5こあつめた数を数字で書きましょう。

①	千兆	百兆	十兆	一兆	千億	百億	十億	一億	千万	百万	十万	一万	千	百	十	一
	の位	の位	の位	の位	の位	の位	の位	の位	の位	の位	の位	の位	の位	の位	の位	の位
②	5	3	8	1	7	4	0	6	0	2	1	9	6	0	1	4
③		7	3	6	0	0	0	0	1	8	5	0	6	5	0	9
④		4	9	5	3	0	6	0	0	0	0	7	0	0	0	0
⑤	8	2	9	0	0	0	0	0	4	6	0	0	0	5	0	0

② 次の数の読み方を漢字で書きましょう。

① 708650320040100

七百八兆六千五百三億二千四万百

② 1006430700005809

千六兆四千三百七億五千八百九

③ 35000089040216

三十五兆八千九百四万二百十六



4

1. 大きな数 ④

名前

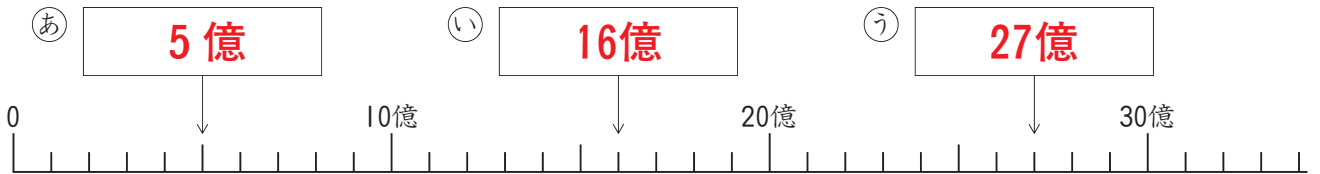
組 番

ねらい

数直線を見て、数の構成、1億を基にした相対的な大きさの数を考え、大きな数の計算の仕方を考える。

④ 技知

① □にあてはまる数を書きましょう。



③の数について、下の□にあてはまる数を書きましょう。

- ① 10億を **2** こと、1億を **7** こあわせた数
- ② 1億を **27** こあつめた数
- ③ 1000万を **270** こあつめた数
- ④ **26億9999万9999** より1大きい数 **または 2699999999**

② 7053000000000000について□にあてはまる数を書きましょう。

- ① 10兆を **7** こと、1000億を5こ、100億を3こあわせた数です。
- ② 1兆を70こと、1億を **5300** こあわせた数です。
- ③ 1億を **705300** こあわせた数です。

③ 次の数の和を求めます。□にあてはまる数を書きましょう。

(1504億、798億)

1億をもとにして考えると、1504億は **1504** 、798億は **798** となるから、

和は1億が **2302** で、答えは **2302億** 。

差は1億が **706** で、答えは **706億** 。



5

1. 大きな数 ⑤

名前

組 番

ねらい

10倍、100倍、 $\frac{1}{10}$ にしたときの大きさの表し方、整数は0から9までの数字を使って表せることなどを理解する。

考技 ①知

① 次の数を10倍した数、100倍した数、 $\frac{1}{10}$ の数を書きましょう。

7000億

10倍した数

700000000000 または 7兆

100倍した数

7000000000000 または 70兆

$\frac{1}{10}$ の数

70000000000 または 700億

6兆

10倍した数

6000000000000 または 60兆

100倍した数

60000000000000 または 600兆

$\frac{1}{10}$ の数

600000000000 または 6000億

9070万

10倍した数

907000000 または 9億700万

100倍した数

9070000000 または 90億7000万

$\frac{1}{10}$ の数

9070000 または 907万

50兆8000億

100倍した数

5080000000000000 または 5080兆

100でわった数

50800000000000 または 5080億

$\frac{1}{10}$ の数

508000000000000 または 5兆800億

② 次の13まいのカードを全部使って数を作りましょう。

0 0 0 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

① いちばん大きな数

9876543210000

② いちばん小さな数

1000023456789

6

1. 大きな数 ⑥

名前

組 番

ねらい

3位数×3位数の乗法計算、十の位に空位がある3位数×3位数の乗法計算の仕方を考える。

④ 技 知

① 次の計算をしましょう。

①

$$\begin{array}{r} 273 \\ \times 145 \\ \hline 1365 \\ 1092 \\ 273 \\ \hline 39585 \end{array}$$

②

$$\begin{array}{r} 349 \\ \times 216 \\ \hline 2094 \\ 349 \\ 698 \\ \hline 75384 \end{array}$$

③

$$\begin{array}{r} 734 \\ \times 462 \\ \hline 1468 \\ 4404 \\ 2936 \\ \hline 339108 \end{array}$$

② 2通りの方法の計算のしかたで計算をしましょう。

① 631×707

$$\begin{array}{r} 631 \\ \times 707 \\ \hline 4417 \\ 000 \\ 4417 \\ \hline 446117 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 631 \\ \times 707 \\ \hline 4417 \\ 4417 \\ 446117 \\ \hline 446117 \end{array}$$

② 914×305

$$\begin{array}{r} 914 \\ \times 305 \\ \hline 4570 \\ 000 \\ 2742 \\ \hline 278770 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 914 \\ \times 305 \\ \hline 4570 \\ 2742 \\ 278770 \\ \hline 278770 \end{array}$$



7

1. 大きな数 ⑦

名前

組 番

ねらい

2700×30、24億×20のような末位に0のある乗法計算を数の相対的な大きさを基に考える。

③ 技 知

① 計算のくふうのしかたを□にあてはまる数を入れて、せつ明しましょう。

$$\begin{aligned}
 \textcircled{1} \quad 69000 \times 700 &= 69 \times \boxed{1000} \times 7 \times \boxed{100} \\
 &= 69 \times 7 \times \boxed{1000} \times \boxed{100} \\
 &\quad \underbrace{\hspace{1.5cm}} \quad \underbrace{\hspace{1.5cm}} \\
 &\quad 69000 \leftarrow \\
 &\times 700 \\
 \hline
 &\boxed{483} \quad \boxed{0000}
 \end{aligned}$$

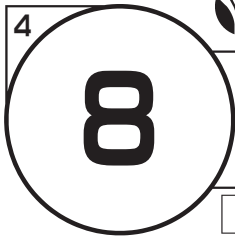
$$\begin{aligned}
 \textcircled{2} \quad 36000 \times 780 &= 36 \times \boxed{1000} \times 78 \times \boxed{10} \\
 &= \boxed{36} \times \boxed{78} \times \boxed{1000} \times \boxed{10} \\
 &\quad \underbrace{\hspace{1.5cm}} \quad \underbrace{\hspace{1.5cm}} \\
 &\quad \boxed{36} \quad \boxed{000} \\
 &\times \quad \boxed{78} \quad \boxed{0} \\
 \hline
 &\boxed{288} \quad \text{36} \times 8 \\
 &\boxed{2520} \quad \text{36} \times 70 \\
 &\boxed{2808} \quad \boxed{0000}
 \end{aligned}$$

③ 47億×800

47億は **1億** を47こ集めた数だから、47億×800は

1億 が (**47** × **800**) こ集まった数になる。

47億×800 = (**47** × **800**) 億 = **37600** 億



1. 大きな数 ㊸

名前

組 番

ねらい 整数のしくみを使って、20年は何秒か等を求める式を考える。 ㊸ 技知

1 20年は何秒か求めます。□の中に、あてはまる数を書きましょう。

① 1日は何秒でしょうか。

・ 1分は 秒

・ 1時間は × 60で 秒

・ 1日は × 24で 秒

② 1年は何秒でしょうか。

・ 1年は × 365で 秒

③ 20年は何秒でしょうか。

× 20で 秒

9

2. わり算の筆算(1) ①

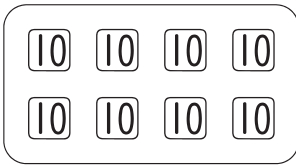
名前

組 番

ねらい 72÷3のような、2位数÷1位数の除法計算の仕方を考える。 (考) 技知

① □や()にあてはまる数や言葉、式を書きましょう。

① 80このみかんを4つの箱に同じ数ずつ入れます。1箱には何このみかんが入っているでしょうか。



80は が8こだから

80÷4は、10が (÷) になる。

式

答え ()

② 84このみかんを4つの箱に同じ数ずつ入れます。1箱には何このみかんが入っているでしょうか。

84を と に分けて計算する。

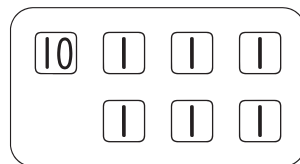
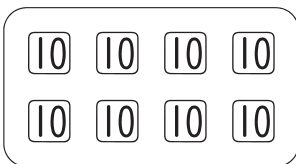
式 ÷ =

÷ =

÷ =



③ 96÷4の計算のしかたを考えます。□の中に、あてはまる数を書きましょう。



96÷4 =

÷ 4 =

÷ 4 =





10

2. わり算の筆算(1) ②

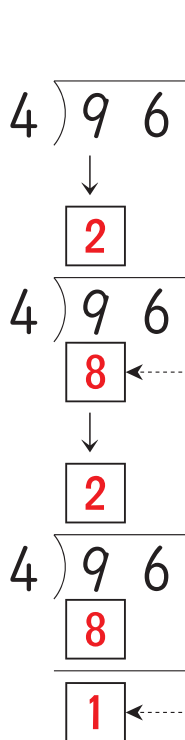
名前

ねらい 除法の筆算の仕方を理解する。

考技(知)

○ 96÷4の筆算のしかたを説明します。□にあてはまる数や式、()には言葉を書いて、説明をかんせいしましょう。

十の位の計算



$9 \div 4 = \boxed{2}$ あまり 1

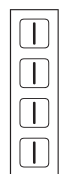
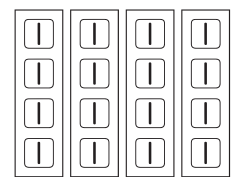
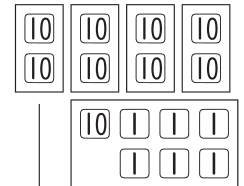
$\boxed{2}$ を十の位に(**たてる**)

4に $\boxed{2}$ を(**かける**)

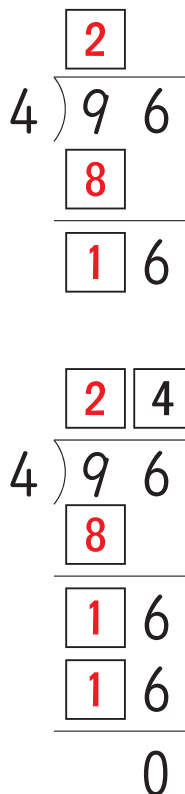
$4 \times \boxed{2} = \boxed{8}$

9から $\boxed{8}$ を(**ひく**)

$9 - \boxed{8} = \boxed{1}$



一の位の計算



一の位に6を(**おろす**)

十の位の $\boxed{1}$ と一の位の6を

あわせて $\boxed{16}$

$\boxed{16} \div 4 = \boxed{4}$ だから

答えの一の位に $\boxed{4}$ を(**たてる**)

4に $\boxed{4}$ を(**かける**)

$4 \times \boxed{4} = \boxed{16}$

$\boxed{16}$ から $\boxed{16}$ をひく

$\boxed{16} - \boxed{16} = 0$

11

2. わり算の筆算(1) ③

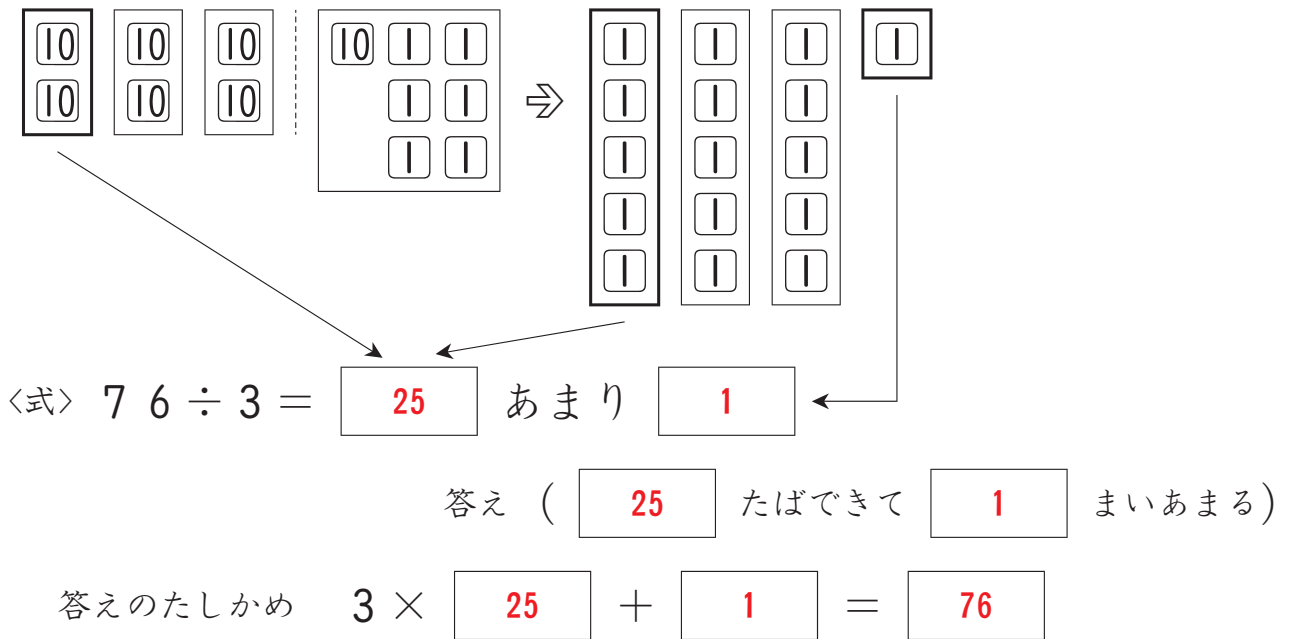
名前

組 番

ねらい 85÷3のような、2位数÷1位数で余りのある除法計算の仕方を (考) 技 知 考える。

① 76まいの画用紙を3まいずつクリップでとめます。3まいずつクリップでとめられた画用紙のたばはいくつできて、何まいあまるでしょうか。

① 図にかいて、計算のしかたを考えましょう。



〈式〉 $76 \div 3 = 25$ あまり 1

答え (25 たばできて 1 まいあまる)

答えのたしかめ $3 \times 25 + 1 = 76$

② わり算の答えは、次の式でたしかめられます。()にあてはまる言葉をかきましょう。

わる数 × (商) + (あまり) = わられる数

② 次の計算を筆算でして、答えのたしかめもしましょう。

① $97 \div 2$

② $86 \div 7$

③ $83 \div 3$

④ $79 \div 5$

$$\begin{array}{r} 48 \\ 2 \overline{)97} \\ \underline{8} \\ 17 \\ \underline{16} \\ 1 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 12 \\ 7 \overline{)86} \\ \underline{7} \\ 16 \\ \underline{14} \\ 2 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 27 \\ 3 \overline{)83} \\ \underline{6} \\ 23 \\ \underline{21} \\ 2 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 15 \\ 5 \overline{)79} \\ \underline{5} \\ 29 \\ \underline{25} \\ 4 \end{array}$$

$2 \times 48 + 1 = 97$

$7 \times 12 + 2 = 86$

$3 \times 27 + 2 = 83$

$5 \times 15 + 4 = 79$

12

2. わり算の筆算(1) ④

名前

組 番

ねらい

十の位が整除される場合や、十の位に商が立たない場合、商の一の位が0になる場合の除法計算の仕方を考える。

③ 技知

① 次のわり算の中で、商が十の位からたつものと、一の位からたつものをすべてえらびましょう。計算しないでえらびましょう。

① $5 \overline{)57}$

② $4 \overline{)64}$

③ $3 \overline{)25}$

④ $7 \overline{)98}$

⑤ $6 \overline{)49}$

⑥ $8 \overline{)88}$

〈答え〉 十の位からたつもの (**ア、イ、エ、カ**)

一の位からたつもの (**ウ、オ**)

② 次の計算をしましょう。(くふうできる計算もあります)

①
$$\begin{array}{r} 21 \\ 4 \overline{)84} \\ \underline{8} \\ 4 \\ \underline{4} \\ 0 \end{array}$$

②
$$\begin{array}{r} 23 \\ 3 \overline{)69} \\ \underline{6} \\ 9 \\ \underline{9} \\ 0 \end{array}$$

③
$$\begin{array}{r} 9 \\ 6 \overline{)58} \\ \underline{54} \\ 4 \end{array}$$

④
$$\begin{array}{r} 6 \\ 7 \overline{)47} \\ \underline{42} \\ 5 \end{array}$$

⑤
$$\begin{array}{r} 10 \\ 6 \overline{)65} \\ \underline{6} \\ 5 \end{array}$$

⑥
$$\begin{array}{r} 10 \\ 7 \overline{)73} \\ \underline{7} \\ 3 \end{array}$$

⑦
$$\begin{array}{r} 10 \\ 9 \overline{)92} \\ \underline{9} \\ 2 \end{array}$$

⑧
$$\begin{array}{r} 10 \\ 5 \overline{)50} \\ \underline{5} \\ 0 \end{array}$$

13

2. わり算の筆算(1) ⑤

名前

組 番

ねらい

900 ÷ 3 の計算を100を基にして考えたり、
3 位数 ÷ 1 位数 = 3 位数の除法計算の仕方を説明する。

④ 技 知

① 900まいの色紙を3つの学年に同じ数ずつ配ります。

1 学年分は何まいになるでしょうか。□にあてはまる数を書きましょう。

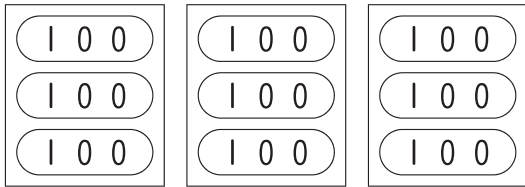
式

$$900 \div 3 = 300$$

答え

300まい

<図>



900 ÷ 3 の計算は

$$100 \text{ をもとに考えると } 9 \div 3 = 3$$

$$10 \text{ をもとに考えると } 90 \div 3 = 30$$

$$1 \text{ をもとに考えると } 900 \div 3 = 300$$

② 863 ÷ 3 の計算のしかたを考えます。

□にあてはまる数を、() に言葉を書きましょう。

$$863 \div 3 = 287 \text{ あまり } 2$$

100
が2こ

<百の位の計算> 8 ÷ 3 = 2 あまり 2

$$\begin{array}{r}
 \boxed{287} \\
 3 \overline{) 863} \\
 \underline{6} \\
 26 \\
 \underline{24} \\
 23 \\
 \underline{ 21} \\
 2
 \end{array}$$

2 を百の位に (たてる)

3 に 2 を (かける)

$$3 \times 2 = 6$$

8 から 6 を (ひく)

$$8 - 6 = 2$$

+ の位の 6 を (おろす)

あとは、+ の位、- の位の順に (たてる) (かける)

(ひく) (おろす) をくり返していく。

14

2. わり算の筆算(1) ⑥

名前

組 番

ねらい

商の一の位や十の位に0が立つ除法計算の筆算の仕方を説明する。

③ 技 知

① 次の計算のしかたを説明しています。□には数を書きましょう。

①

$$\begin{array}{r} | \boxed{3} \boxed{0} \\ 7 \overline{) 9 6} \\ \underline{7 0} \\ 2 1 \\ \underline{2 1} \\ \boxed{6} \end{array}$$

②

$$\begin{array}{r} | \boxed{0} \boxed{7} \\ 6 \overline{) 6 4 3} \\ \underline{6 0} \\ \boxed{4} \boxed{3} \\ \underline{ 4 2} \\ \boxed{1} \end{array}$$

せつ
〈説明〉

一の位の商は $6 \div 7$ でわれないので

$\boxed{0}$ になります。

〈説明〉

十の位の商は $4 \div$

$\boxed{6}$

でわれないので

$\boxed{0}$ になります。

①

$$\begin{array}{r} | \boxed{1} \boxed{8} \boxed{0} \\ 3 \overline{) 5 4 1} \\ \underline{3 0} \\ 2 4 \\ \underline{2 4} \\ 1 \end{array}$$

②

$$\begin{array}{r} | \boxed{2} \boxed{0} \boxed{3} \\ 4 \overline{) 8 1 3} \\ \underline{8 0} \\ 1 3 \\ \underline{ 1 2} \\ 1 \end{array}$$

③

$$\begin{array}{r} | \boxed{1} \boxed{2} \boxed{0} \\ 8 \overline{) 9 6 5} \\ \underline{8 0} \\ 1 6 \\ \underline{ 1 6} \\ 5 \end{array}$$

④

$$\begin{array}{r} | \boxed{1} \boxed{0} \boxed{8} \\ 3 \overline{) 3 2 6} \\ \underline{3 0} \\ 2 6 \\ \underline{ 2 4} \\ 2 \end{array}$$

⑤

$$\begin{array}{r} | \boxed{3} \boxed{0} \boxed{8} \\ 3 \overline{) 9 2 5} \\ \underline{9 0} \\ 2 5 \\ \underline{ 2 4} \\ 1 \end{array}$$

⑥

$$\begin{array}{r} | \boxed{4} \boxed{0} \boxed{8} \\ 2 \overline{) 8 1 7} \\ \underline{8 0} \\ 1 7 \\ \underline{ 1 6} \\ 1 \end{array}$$

15

2. わり算の筆算(1) ⑦

名前

組 番

ねらい 百の位に商が立たない3位数÷1位数=2位数の除法計算の仕方 (考) (技) 知
を考え、筆算ができる。

① 257このあめを3人で同じ数ずつ分けます。

1人分は何こになって何こあまるでしょう。式を立てて筆算をし、□にあてはまる数を、()にあてはまる言葉を書きましょう。

<式>

$$257 \div 3$$

$$\begin{array}{r} \overline{) 257} \\ \underline{24} \\ \overline{) 17} \\ \underline{15} \\ \overline{) 2} \end{array}$$

$$2 \div 3$$

百の位に商は立たない。

$$25 \div 3 = 8 \text{ あまり } 1$$

8 を十の位に (たてる)

3に 8 をかける $3 \times 8 = 24$

25 から 24 を (ひく) $25 - 24 = 1$

一の位の 7 を (おろす)

一の位の計算も (たてる) (かける) (ひく) (おろす) を

くり返していく。

①
$$\begin{array}{r} \overline{) 74} \\ \underline{49} \\ \overline{) 28} \\ \underline{28} \\ \overline{) 0} \end{array}$$

②
$$\begin{array}{r} \overline{) 56} \\ \underline{45} \\ \overline{) 11} \\ \underline{9} \\ \overline{) 2} \end{array}$$

③
$$\begin{array}{r} \overline{) 72} \\ \underline{28} \\ \overline{) 44} \\ \underline{28} \\ \overline{) 16} \\ \underline{16} \\ \overline{) 0} \end{array}$$

④
$$\begin{array}{r} \overline{) 62} \\ \underline{48} \\ \overline{) 14} \\ \underline{12} \\ \overline{) 2} \end{array}$$

16

2. わり算の筆算(1) ⑧

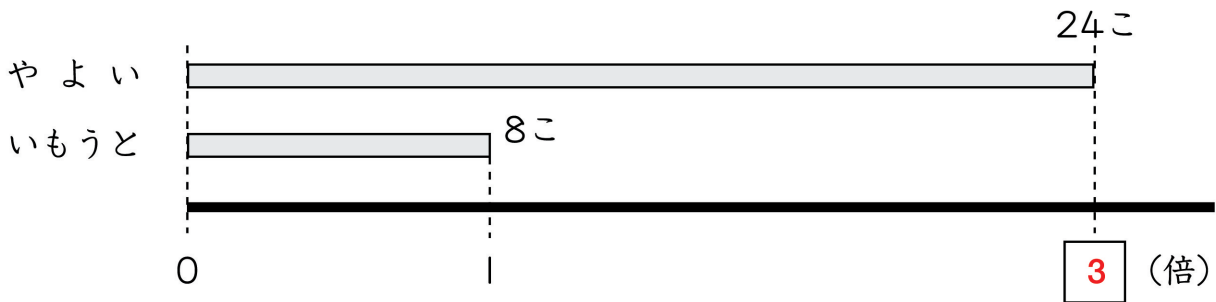
名前

組 番

ねらい 12mが4mの何倍かを求めるようなとき、除法を適用して求めることができる。 考(技)知

① つぎの問題に答えましょう。

① やよいさんは、いもうとといっしょに、あきカンひろいをしました。やよいさんは24こあつめ、いもうとは、8こあつめました。やよいさんは、いもうとの何倍ひろいましたか。図の□に数を書きましょう。



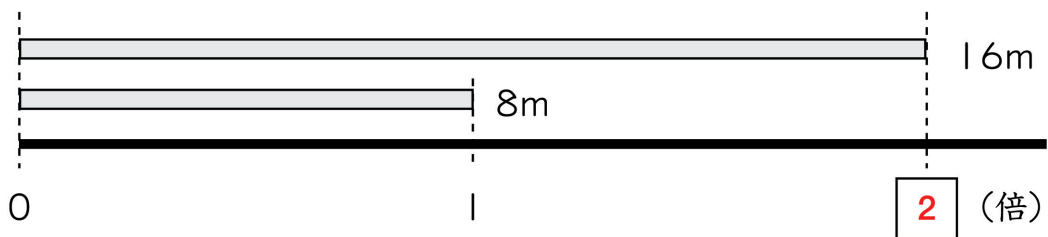
<式>

$24 \div 8 = 3$

答え (**3倍**)

② 16mのロープは8mのロープの長さの何倍でしょうか。

(1) 図の□に数を書きましょう。



<式>

$16 \div 8 = 2$

答え (**2倍**)

③ 水がバケツに8L入っています。この量は、ペットボトルに入っている量の4倍です。ペットボトルには何L入っているのでしょうか。

<式>

$8 \div 4 = 2$

答え (**2L**)

17

2. わり算の筆算(1) ⑨

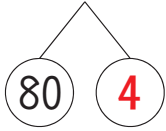
名前

組 番

ねらい 2位数÷1位数の暗算の仕方を考え、暗算で求めることができる。 ④⑤⑥⑦⑧⑨

① 暗算でしましょう。

① 84 ÷ 2



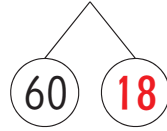
上の位から計算

80 ÷ 2 = 40

4 ÷ 2 = 2

あわせて 42

② 78 ÷ 3



上の位から計算

60 ÷ 3 = 20

18 ÷ 3 = 6

あわせて 26

③ 39 ÷ 3 = 13

④ 99 ÷ 9 = 11

⑤ 48 ÷ 4 = 12

⑥ 52 ÷ 4 = 13

⑦ 81 ÷ 3 = 27

⑧ 65 ÷ 5 = 13

⑨ 84 ÷ 6 = 14

⑩ 57 ÷ 3 = 19

⑪ 96 ÷ 6 = 16

18

☆ どちらが大きいかな

名前

組 番

ねらい 数と計算についての感覚を豊かにする。

④ 技知

① 下の①と②の答えは、どちらが大きいかを説明しましょう。

① $3 + 3 + 3 + 3 + 3 + 3 + 3 + 3 + 3 + 3 + 3 + 3 + 3$

② $6 + 6 + 6 + 6 + 6 + 6$

答え ($\textcircled{1}$ は $3 \times 12 = 36$ $\textcircled{2}$ は $6 \times 6 = 36$
大きさは同じ)

② 上の①と②の「+」を「×」にかえました。そうすると、答えはどちらが大きいでしょうか。説明しましょう。

① $3 \times 3 \times 3 \times 3 \times 3 \times 3 \times 3 \times 3 \times 3 \times 3 \times 3 \times 3 \times 3$

② $6 \times 6 \times 6 \times 6 \times 6 \times 6$

答え ($\textcircled{1}$ は $9 \times 9 \times 9 \times 9 \times 9 \times 9 \times 3$
と表せるから、 $\textcircled{2}$ より $\textcircled{1}$ の方が大きい。)

③ 下の①と②の答えは、どちらが大きいかを説明しましょう。

① $2 + 2 + 2 + 2 + 2 + 2 + 2 + 2 + 2 + 2 + 2 + 2$

② $6 + 6 + 6 + 6 + 6 + 6$

答え ($\textcircled{1}$ は $6 + 6 + 6 + 2 + 2$
と表せるから、 $\textcircled{1}$ より $\textcircled{2}$ の方が大きい。)

または、

$\textcircled{2}$ は $2 + 2 + 2 + 2 + 2 + 2 + 2 + 2 + 2 + 2 + 2 + 2 + 2 + 2 + 2 + 2$ と表せる。

$\textcircled{1}$ より2が7こ多いから、 $\textcircled{2}$ の方が大きい。

19

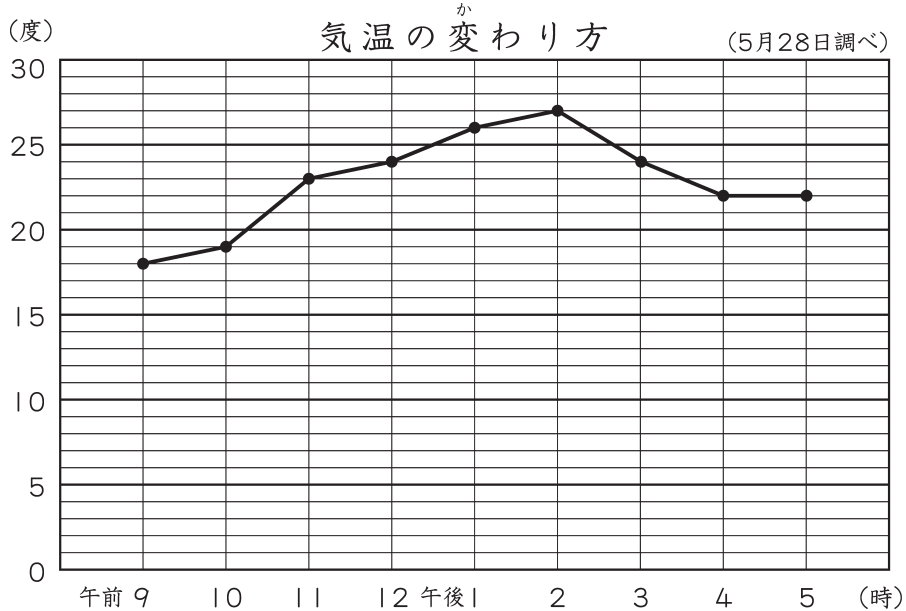
3. 折れ線グラフ ①

名前

組 番

ねらい 変化の様子を表すグラフとして折れ線グラフの読み方を理解する。 考技 (知)

① 下のグラフを見て、答えましょう。



- ① 上のようなグラフのことを何というでしょうか。 (**折れ線グラフ**)
- ② 何を表したグラフでしょうか。 (**気温の変わり方**)
- ③ 横じくは、何を表しているのでしょうか。 (**時こく**)
- ④ たてじくは、何を表しているのでしょうか。 (**気温**)
- ⑤ 午前 9 時の気温は、何度でしょうか。 (**18度**)
- ⑥ 午後 4 時の気温は、何度でしょうか。 (**22度**)
- ⑦ 気温が 23 度になったのは、何時でしょうか。 (**午前 11 時**)
- ⑧ 気温が 19 度になったのは、何時でしょうか。 (**午前 10 時**)
- ⑨ 気温が 1 番高かったのは、何時でしょうか。また、それは何度でしょうか。
(**午後 2 時**) (**27度**)

20

3. 折れ線グラフ ②

名前

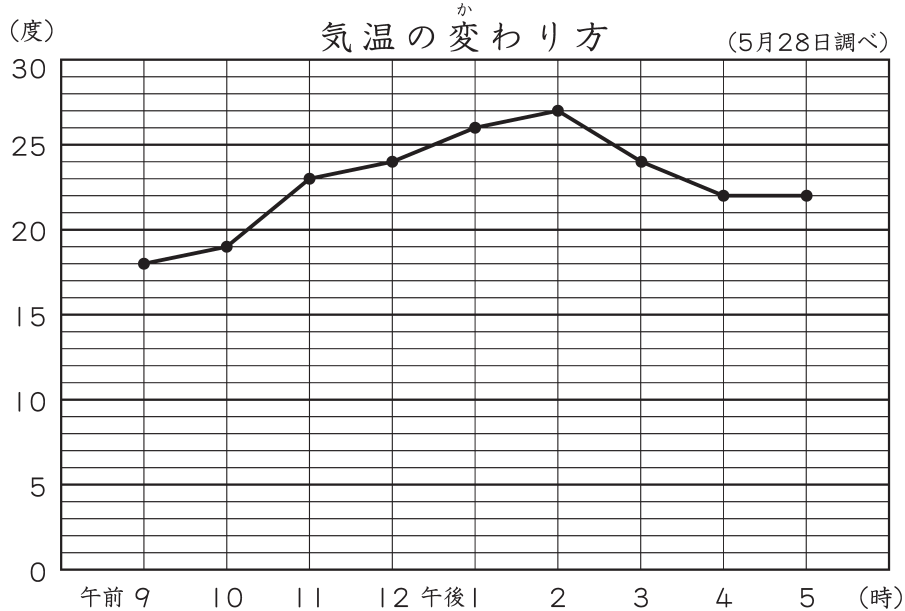
組 番

ねらい

折れ線グラフの傾きと変化の大きさについて調べ、理解する。

考技 (知)

① 下のグラフを見て、答えましょう。



① 気温が上がっているのは、何時から何時まででしょうか。

(午前 9 時から午後 2 時)

② 気温が下がりはじめたのは、何時からでしょうか。

(午後 2 時)

③ 1時間の気温の上がり方が一番大きかったのは、何時から何時でしょうか。

(午前 10 時から午前 11 時)

② 下の①から③の中から、折れ線グラフで表すとよいものをすべて記号で選びましょう。

① 毎年、5月1日にはかった自分の体重

② A市の1月から12月までの降水量

③ 1週間ごとに調べたへちまの長さ

答え (① ③)

21

3. 折れ線グラフ ③

名前

組 番

ねらい 折れ線グラフのかき方を理解する。

考技 (知)

下の表はある市の1年間の気温を調べたものです。

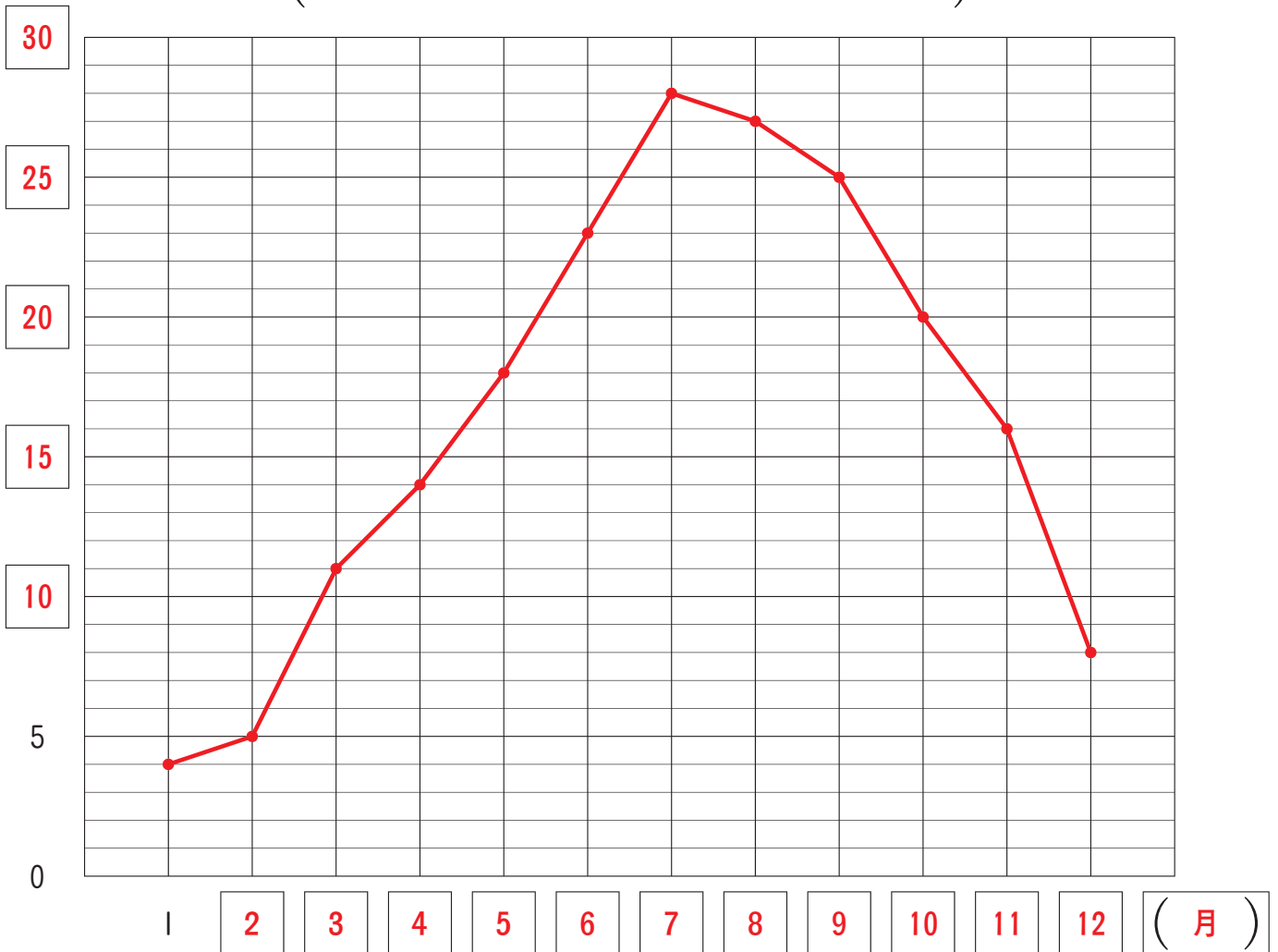
<1年間の気温の^かわり方>

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
気温(度)	4	5	11	14	18	23	28	27	25	20	16	8

上の表を折れ線^おグラフに表しましょう。

(度)

(1年間の気温のわり方)



3. 折れ線グラフ ④

名前

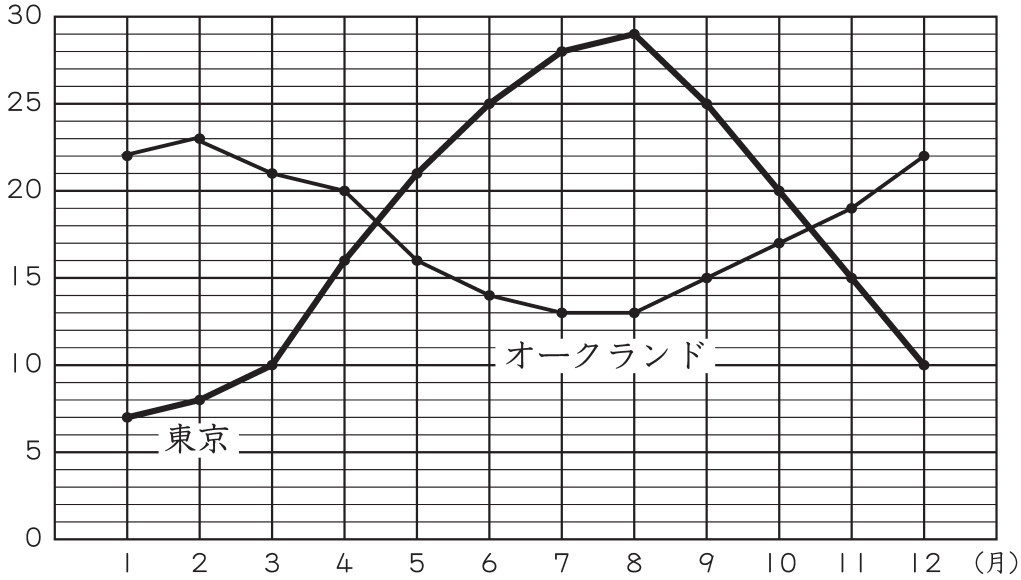
組 番

ねらい

2つの折れ線グラフを同じグラフ用紙に表し、関連や特徴を調べ、読み取ることができる。 考(技)知

① 下のグラフを見て、答えましょう。

(度) 東京とオークランド(ニュージーランド)の月別の気温



- ① 横じくは何を表していますか。 (月)
- ② たてじくの1めもりは、何度を表していますか。 (1度)
- ③ 東京でいちばん高い気温は何月で、それは何度ですか。
(8月) (29度)
- ④ オークランドでいちばん高い気温は何月で、それは何度ですか。
(2月) (23度)
- ⑤ 東京とオークランドで気温の差がいちばん大きいのは何月で、何度ですか。
(8月) (16度)
- ⑥ 東京とオークランドでは、いちばん高い気温は何度ちがうでしょうか。
また、いちばん低い気温は何度ちがうでしょうか。

いちばん高い気温のちがい (6度)

いちばん低い気温のちがい (6度)

3. 折れ線グラフ ⑤

名前

組 番

ねらい 波線を用いて、途中の目盛りを省略する場合を理解する。

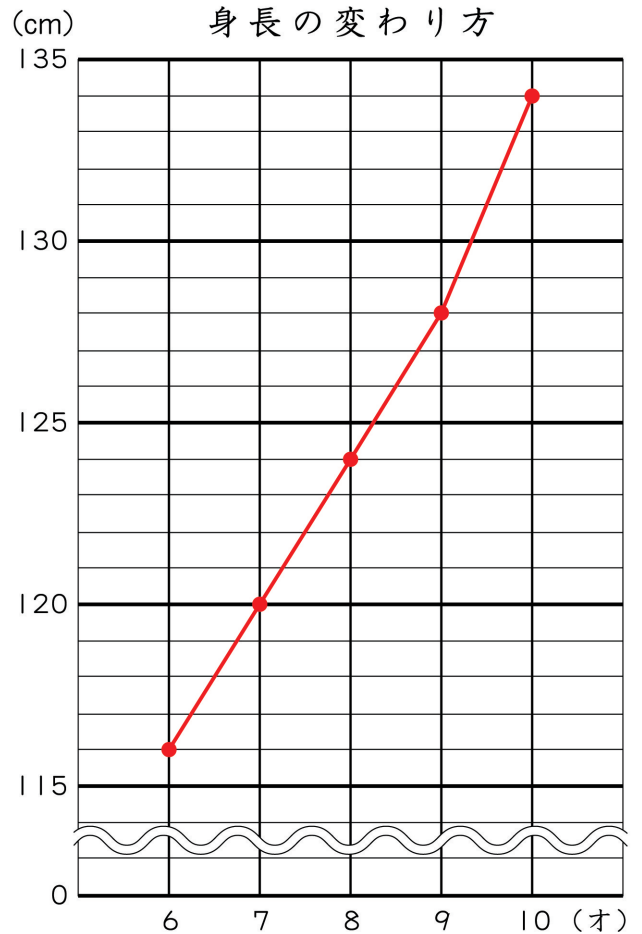
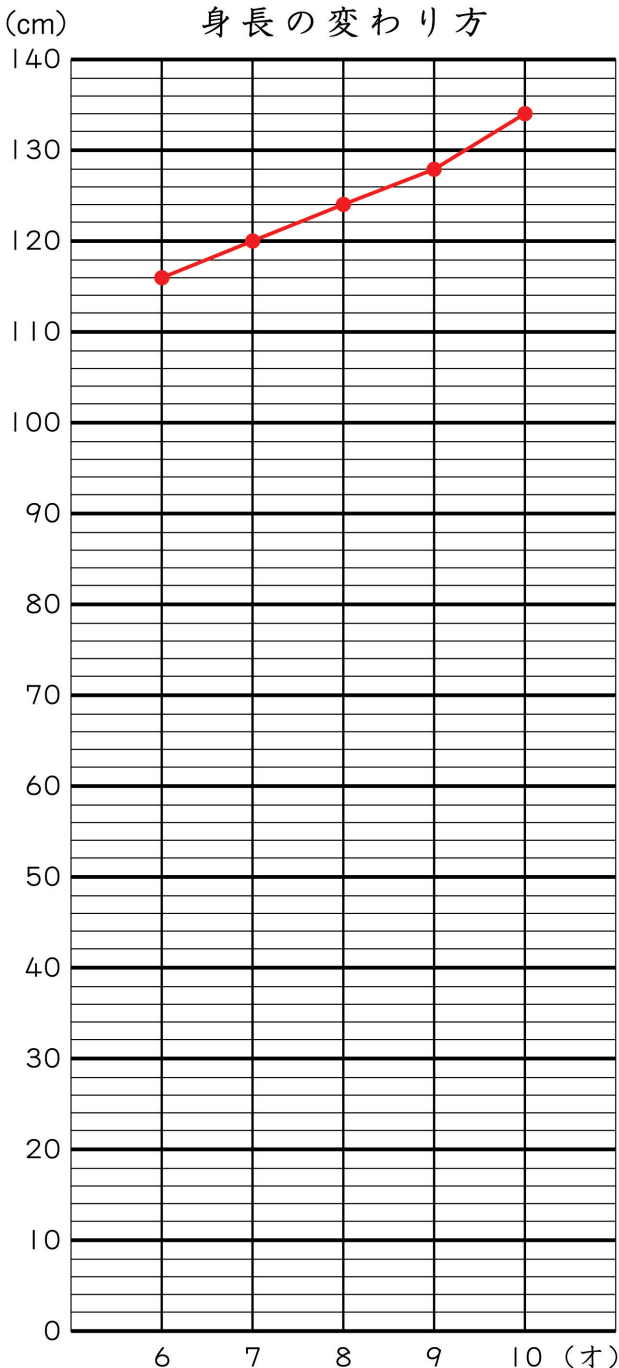
考技(知)

あきこさんの身長の変わり方を調べました。

〈身長の変わり方〉

年れい(才)	6	7	8	9	10
身長(cm)	116	120	124	128	134

① 上の表をそれぞれ折れ線グラフに表しましょう。



② 上の右がわの折れ線グラフのように、
 ～～を使って、どちゅうのめもりをはぶくと、どのようなことが見やすくなりますか。

(変化のようすがよくわかる)

24

3. 折れ線グラフ ⑥

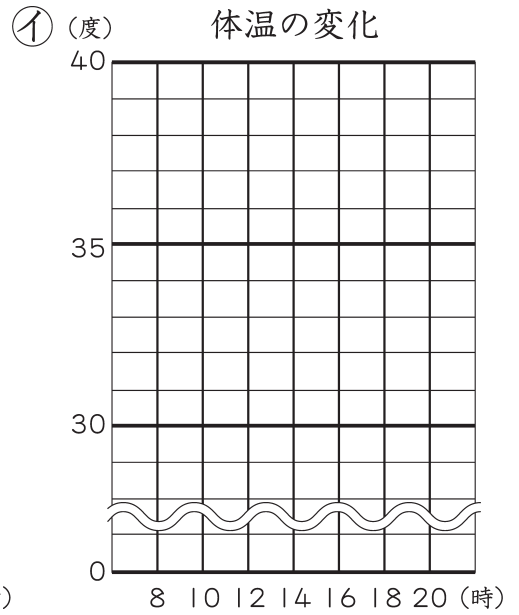
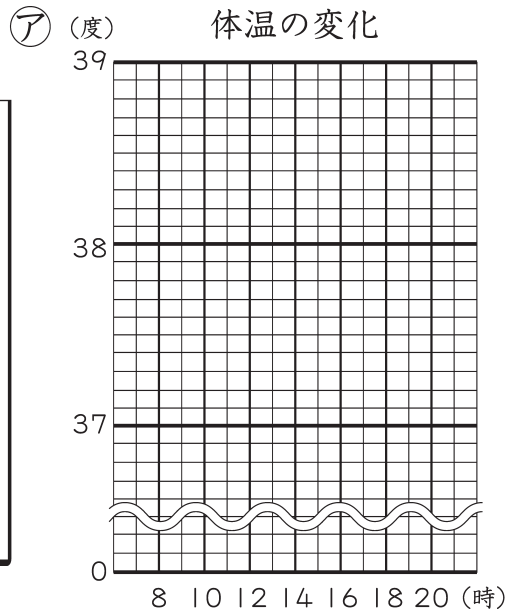
名前

組 番

ねらい 適切な目盛りの取り方や省略の仕方を考えたり、折れ線グラフを考(技)知
場面と結びつけて読み取ったりすることができる。

- ① かぜをひいたときの体温の変化を記録しました。
 ㊦と①のどちらのグラフ用紙を使って折れ線グラフに表すとよいでしょうか。記号を () に書きましょう。 (㊦)

8時	37.5度
10時	38.2度
12時	38.4度
14時	38.8度
16時	39.0度
18時	38.8度
20時	38.3度



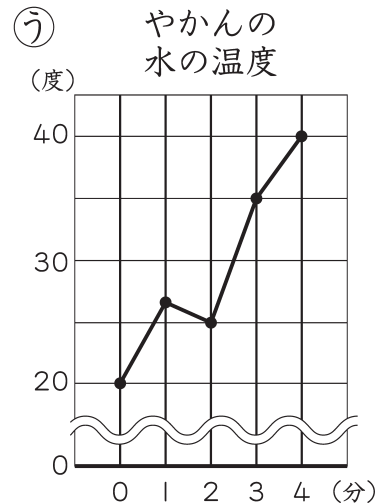
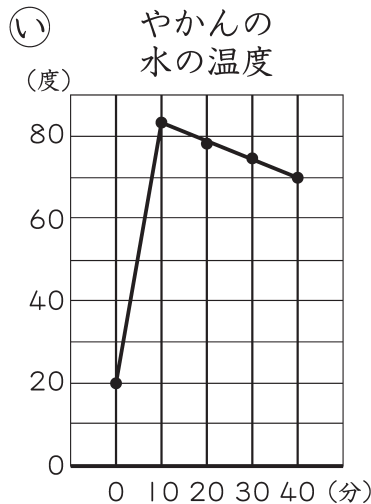
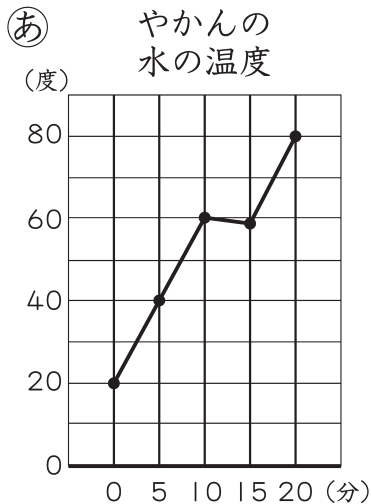
- ② 下の㊦から㊩の中から、話に合う折れ線グラフをえらんで、記号を () に書きましよう。

㊦ (㊦)

1分して1回火をとめて、さらにあたためたよ。

㊦ (㊦)

10分ぐらいずっとあたためて火を止めて、その後5分後にあたためたよ。

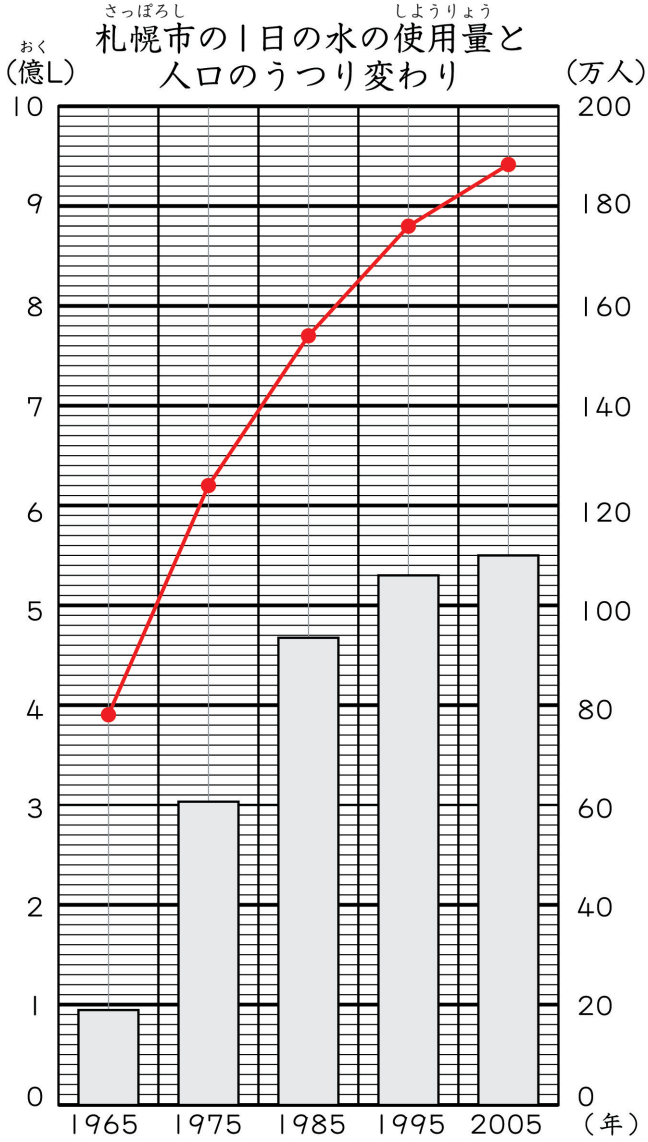


3. 折れ線グラフ ⑦

名前

組 番

ねらい 折れ線グラフから読み取れること、読み取れないことを理解する。 考技(知)



① 左の水の使用量を表した棒グラフを重ねて、人口のうつり変わりを折れ線グラフに表しましょう。

さっぽろし
〈札幌市の人口のうつり変わり〉

年	1965	1975	1985	1995	2005
人口(万人)	79	124	154	176	188

② 上のグラフを見て、読み取ることができるのには○を、読み取ることができないものには×をつけましょう。

- ① (○) 人口がふえると、水の使用量もふえている。
- ② (×) 2005年からあとの40年間で、さらに人口は2倍となり、水の使用量も人口と同じようなふえ方をすると考えられる。
- ③ (×) 水の使用量は40年間で、毎年同じ量ずつふえてきている。
- ④ (○) 1965年から40年間で、人口は2倍以上になっている。

3. 折れ線グラフ ㊸

名前

組 番

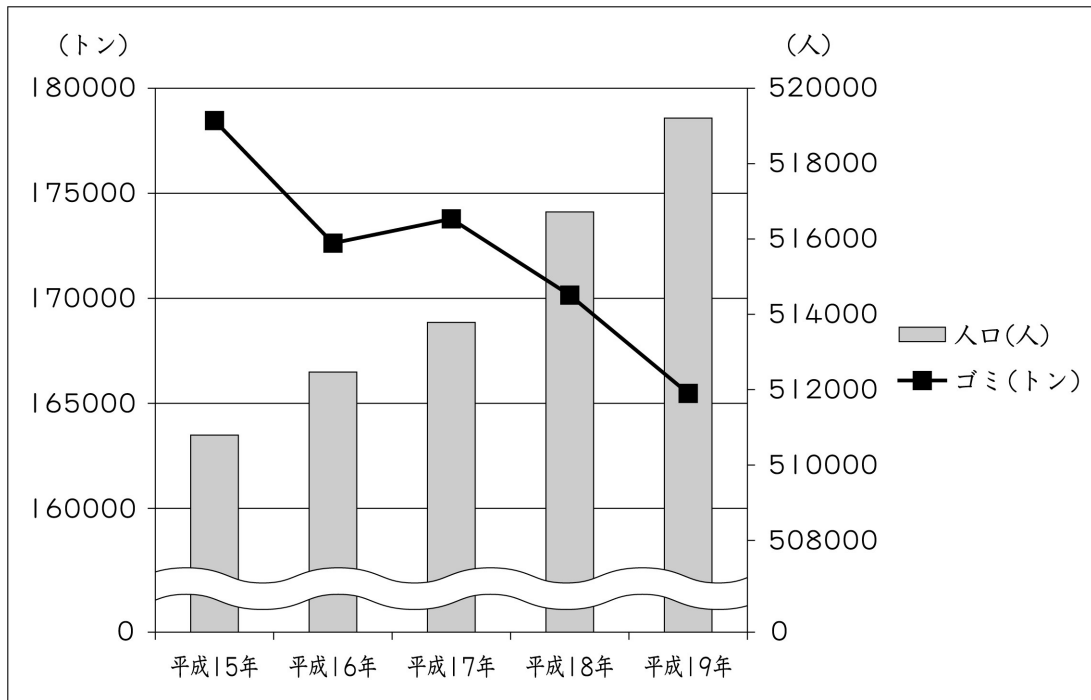
ねらい

棒グラフと折れ線グラフを同じグラフ用紙に表し、関連性を読み取り、説明する。

㊸ 技知

① 下のグラフは、ある都市のゴミの量と人口について表したものです。

ある都市のゴミの量と人口



次の文章で正しいものには○、まちがっているものには×をつけましょう。

- ① (○) 平成18年のある都市のゴミの量は、およそ170000トンである。
- ② (×) 平成19年のある都市の人口は、およそ510000人である。
- ③ (○) 平成16年から平成17年にかけて、ある都市のゴミの量は増えた。
- ④ (×) ある都市では人口が増えているので、ゴミの量も増えている。
- ⑤ (×) 平成15年から平成19年にかけて、ゴミの量は半分になった。

② お 折れ線グラフに表した方がよいと思うものには○、そうでないものには×をつけましょう。

- ① (×) 同じ日にはかった、^{はん}班の人の身長。
- ② (○) 毎年4月にはかった、自分の体重。
- ③ (×) 同じ時こくに調べた、いろいろな場所の気温。
- ④ (○) 7月1日に1時間ごとにはかった、同じ場所の気温。
- ⑤ (×) ある小学校で4月に調べた、学年別の子ども数。

27

4. がい数 ①

名前

組 番

ねらい 概数の意味、概数が用いられる場面、概数を用いるよさを理解する。 考技 ⑧

① () の中にあてはまる言葉を書きましょう。

- ・およその数のことを (**がい数**) といいます。
- ・およそ49000のことを (**約**) 49000といいます。

② 下のアからカの中から、がい数が使われているものをすべて選び、記号を○でかこみましょう。

- ア ほうりゅう 放流したサケの数3000びき
- イ 算数のテスト4回分の合計300点
- ウ 東京都の人口1300万人
- エ 茶わん1ぱい分のごはんつぶの数3000つぶ
- オ 自動車1台のねだん250万円
- カ ぬまち と 沼地に飛んできたわたり鳥の数1万羽 わ

③ 次のア～オの中で、がい数で表した方がわかりやすいものを選んで、記号を○でかこみましょう。

- ア 日本の人口は約1億人と表した方が、くわしい数よりわかりやすい。
- イ 計算する前に、およその答えを見積もると答えがわかりやすい。
- ウ アメリカの人口は、日本の人口の約3倍と大まかにとらえるとわかりやすい。
- エ 家から学校まで歩いたときにかかる時間を、約15分と表すとわかりやすい。
- オ 7億の10倍の数を求めるとき、約10億の10倍と考えるとわかりやすい。

4. がい数 ㉔

名前

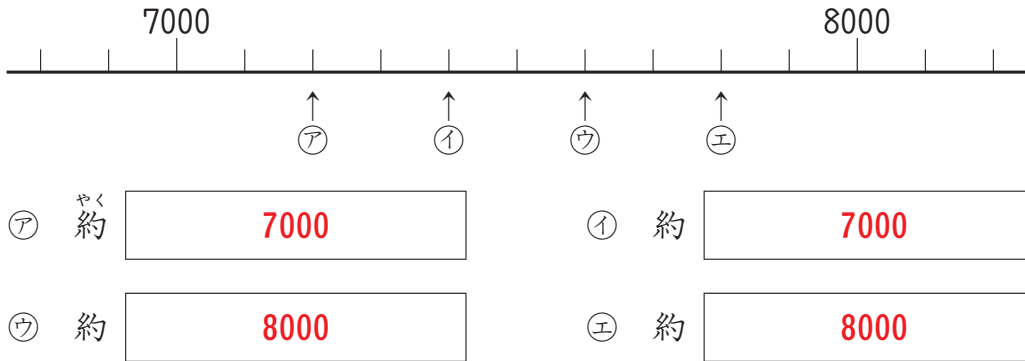
組 番

ねらい 概数で表す仕方を数直線をもとに考える。

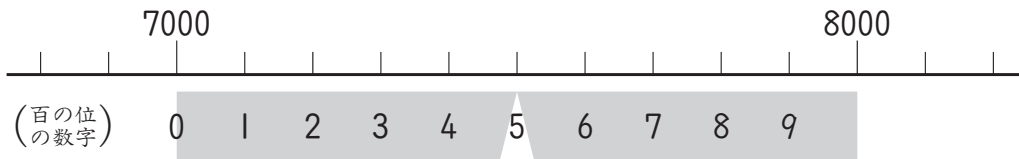
㉔ 技知

① 次の㉔～㉔の数は、それぞれ何千といえるでしょうか。

□の中に数字を書きましょう。



② 次の () の中にはあてはまる文字を、□にはあてはまる数を書きましょう。



① 7000と8000のどちらに近いかは、(千)の位の1つ下の(百)の位の数字を見ればわかります。

② 7000と8000の間にある数を約何千と表すには、百の位の数字が

0、1、2、3、4のとき 約

5、6、7、8、9のとき 約

③ このようにして、がい数を表す方法を(四捨五入)といいます。

4. がい数 ③

名前

組 番

ねらい 四捨五入して「〇桁までの概数にする」仕方を理解する。

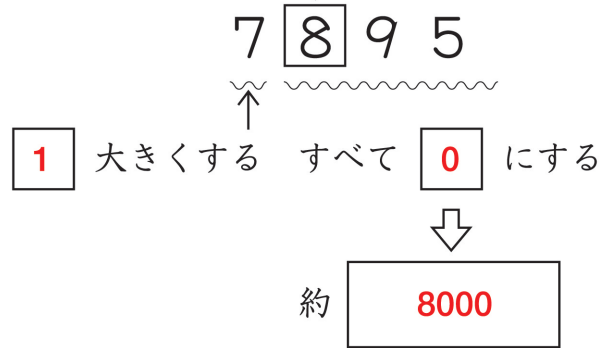
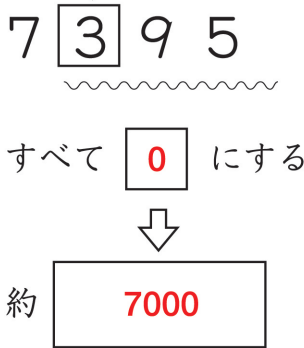
考技 ⑨

① 次の () にはあてはまる言葉を、□にはあてはまる数を書きましょう。

① 四捨五入して約何千と、がいで表すことを

「四捨五入して(千)の位までの(がい数)にする」といいます。

② (百) の位の数を四捨五入する



② 四捨五入して、□の中の位までのがいで表しましょう。

① 376495 (一万の位)

380000

② 54072 (千の位)

54000

③ 2856347 (十万の位)

2900000

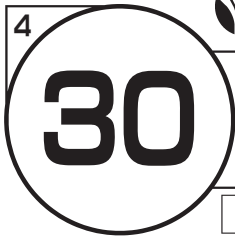
④ 809647632 (一億の位)

800000000

③ 四捨五入して千の位までのがいで数にするときに、次のようなまちがいをしました。どんなまちがいをしたのか、() にあてはまる言葉を書いて説明しましょう。

27654 → 30000

説明 千の位までのがいで数にするには、(百) の位の数字を四捨五入しなければならないのに、(千) の位の数字を四捨五入しているから正しくない。



4. がい数 ④

名前

組 番

ねらい 四捨五入して「上から○桁の概数にする」仕方について理解する。 考技 ④

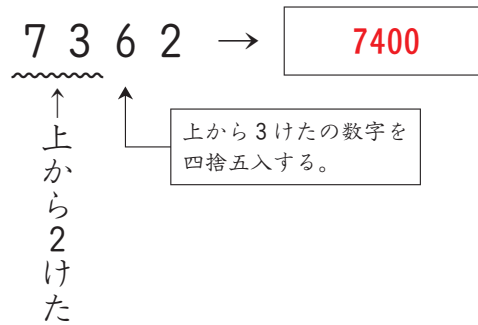
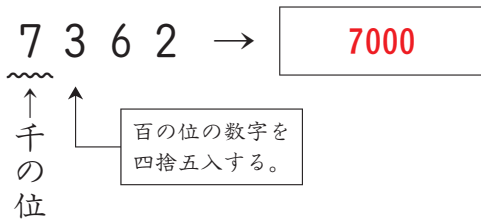
① 次の□にあてはまる数を書きましょう。

がい数で表すとき、「○の位までのがい数」という場合と、「上から○けたのがい数」という場合があります。

どちらの場合も、四捨五入するときは、表したい位の 1 つ下の数の数字に着目します。

〈千の位までのがい数〉

〈上から2けたのがい数〉



② 次の数を四捨五入して、上から2けたのがい数で表しましょう。
また、上から1けたのがい数で表しましょう。

	上から2けたのがい数	上から1けたのがい数
① 847500	850000	800000
② 9378	9400	9000
③ 49836	50000	50000
④ 3927683	3900000	4000000
⑤ 967835	970000	1000000

4. がい数 ⑤

名前

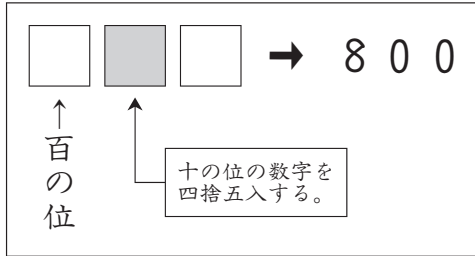
組 番

ねらい

四捨五入して概数にしたときの基になる数の範囲について理解する。

考技 ①知

① 次の□にあてはまる数を書きましょう。



① 四捨五入して、800になるいちばん

小さい整数は **750** です。

② 四捨五入して、800になるいちばん

大きい整数は **849** です。

② 次の () にはあてはまる言葉を、□にはあてはまる数を書きましょう。

650以上

とは、650と (**等しい**) か、それよりも大きいことを表します。

750以下

とは、750と (**等しい**) か、それよりも小さいことを表します。

750 (未満)

とは、750よりも小さいことを表し、 **750** は入りません。

③ 四捨五入して () の中の位までのがい数にしたとき、①～③の数になる数のはんいを、以上、未満を使って表しましょう。

① 4500 (百の位) (**4450以上 4550未満**)

② 74000 (千の位) (**73500以上 74500未満**)

③ 74000 (百の位) (**73950以上 74050未満**)

4. がい数 ⑥

名前

組 番

ねらい

概数を用いる目的に応じて、何の位を四捨五入すればよいかを判断して考える。

⑥ 技知

- ① 右の表は、日本のりんごのしゅうかく量を表したものです。このしゅうかく量を、ぼうグラフに表します。

〈りんごのしゅうかく量〉

都道府県	しゅうかく量(t)
青森	367600
長野	139900
岩手	42200
山形	30800
福島	26300

(2011年 農林水産省調査)

- ① ぼうグラフの1めもりは何tを表しているでしょうか。

(1万) t

- ② 各県のしゅうかく量は、それぞれ約何万tといえるでしょうか。

ア 青森 (37万) t

イ 長野 (14万) t

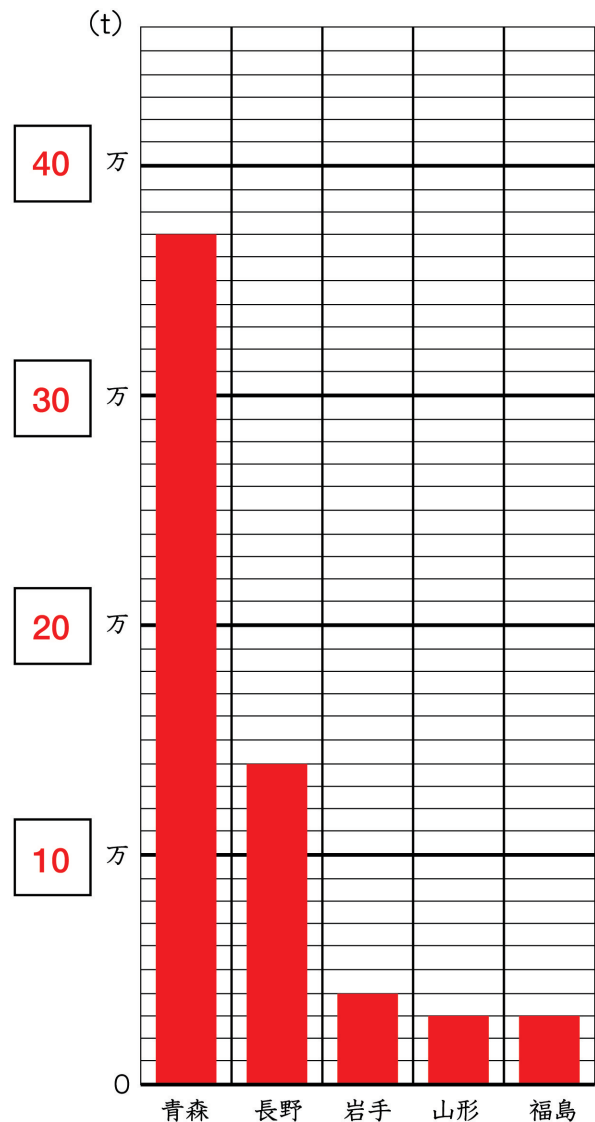
ウ 岩手 (4万) t

エ 山形 (3万) t

オ 福島 (3万) t

- ③ 各県のりんごのしゅうかく量を、ぼうグラフに表しましょう。

りんごのしゅうかく量



5. わり算の筆算(2) ①

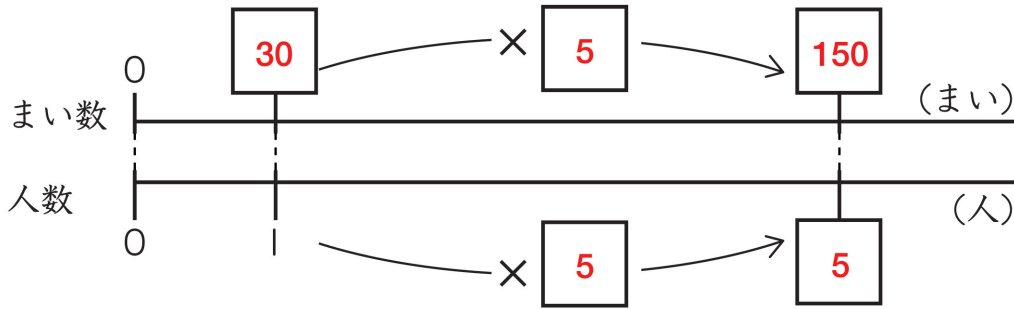
名前

組 番

ねらい 何十・何百÷何十の除去計算の仕方を10をもとにして考える。 (考) 技 知

① 色画用紙が150まいあります。30まいずつ配ると、何人に分けられるでしょうか。

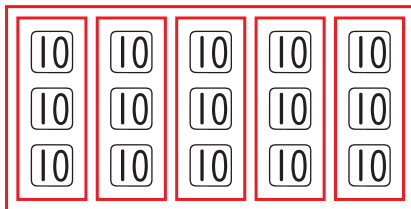
① 数直線をかんせいさせましょう。



② 式を書きましょう。

<式> $150 \div 30 = 5$

③ 計算のしかたを考えて図をかこみ、□にあてはまる数を書きましょう。



150は10をもとにすると 15

30は10をもとにすると 3 に

なるから

$$150 \div 30 = \boxed{15} \div \boxed{3}$$

$$= \boxed{5}$$

150÷30は 15 ÷ 3 と

みることができます。

② 10をもとにして考え、□にあてはまる数を書きましょう。

① $480 \div 80 = \boxed{6}$

48 ÷ 8 = 6 } 等しい

② $900 \div 30 = \boxed{30}$

90 ÷ 3 = 30 } 等しい

③ $720 \div 90 = \boxed{8}$

72 ÷ 9 = 8 } 等しい

④ $1000 \div 50 = \boxed{20}$

100 ÷ 5 = 20 } 等しい

5. わり算の筆算(2) ②

名前

組 番

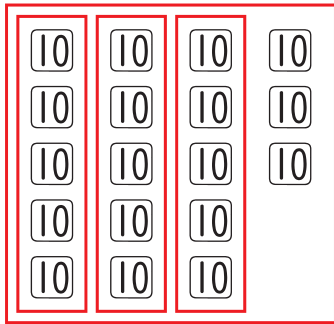
ねらい 何十・何百÷何十ので、あまりのある除法のあまりの大きさを (考) 技 知 考える。

① はがきが180まいあります。50まいずつたばにすると、はがきのたばはいくつできて、何まいあまるでしょうか。

<式> $180 \div 50 = 3$ あまり 30

答え 3たばできて30まいあまる

① 計算のしかたを考えて図をかこみ、□にあてはまる数を書きましょう。



180は をもとにすると18

50は をもとにすると5

になるから

$180 \div 50$ は ÷

にみることができます。

$180 \div 50 =$ あまり
 ÷ = あまり } あまりは等しくならない。

② 答えのたしかめをしましょう。

$50 \times 3 + 30 = 180$
 わる数 × 商 + あまり = わられる数

② □にあてはまる数を書きましょう。

① $42 \div 8 =$ あまり

② $420 \div 80 =$ あまり

③ $80 \div 9 =$ あまり

④ $800 \div 90 =$ あまり

5. わり算の筆算(2) ③

名前

組 番

ねらい 2位数÷2位数の除法計算の仕方を考える。

④ 考 技 知

① 94÷31のわり算を筆算で計算します。

□にあてはまる数を、()にあてはまる言葉を書きましょう。

① 筆算の形にします。→

$$\begin{array}{r} \boxed{3} \ \boxed{1} \overline{) \ 9 \ 4} \end{array}$$

$$\begin{array}{r} \boxed{3} \\ 3 \ 1 \overline{) \ 9 \ 4} \\ \downarrow \end{array}$$

$$\begin{array}{r} \boxed{3} \\ 3 \ 1 \overline{) \ 9 \ 4} \\ \boxed{9} \ \boxed{3} \\ \downarrow \end{array}$$

$$\begin{array}{r} \boxed{3} \\ 3 \ 1 \overline{) \ 9 \ 4} \\ \boxed{9} \ \boxed{3} \\ \hline \boxed{1} \end{array}$$

② わる数の31を $\boxed{30}$ とみて、94の中にいくつ入っているか、商の見当をつけます。

それを一の位にたてます。($\boxed{\text{たてる}}$)

③ 31に3をかけて、94の下に書きます。($\boxed{\text{かける}}$)

④ 94から93をひきます。($\boxed{\text{ひく}}$)

商は $\boxed{3}$ で、あまりが $\boxed{1}$ です。

② 98÷32の筆算のしかたです。□にあてはまる数を書きましょう。

① ($\boxed{\text{商}}$) がたつ位を決める。

$$3 \ 2 \overline{) \ 9 \ \boxed{8}} \rightarrow 3 \ 2 \overline{) \ 9 \ 8}$$

商は一の位からたつ。

$$3 \ 2 \overline{) \ 9 \ 8} \rightarrow$$

$$3 \ 2 \overline{) \ 9 \ 8} \rightarrow$$

$$\boxed{9} \ \boxed{6}$$

$$3 \ 2 \overline{) \ 9 \ 8} \rightarrow$$

$$\boxed{9} \ \boxed{6}$$

$$\boxed{2}$$

($\boxed{\text{商}}$) を一の位にたてる。

32に $\boxed{3}$ をかける。

$$32 \times \boxed{3} = \boxed{96}$$

98から $\boxed{96}$ をひく。

$$98 - \boxed{96} = \boxed{2}$$

5. わり算の筆算(2) ④

名前

組 番

ねらい 2位数÷2位数の除法計算の筆算ができる。

考(技)知

① 次のわり算をしましょう。

$$\textcircled{1} \quad \begin{array}{r} 4 \\ 11 \overline{) 44} \\ \underline{44} \\ 0 \end{array}$$

$$\textcircled{2} \quad \begin{array}{r} 2 \\ 32 \overline{) 64} \\ \underline{64} \\ 0 \end{array}$$

$$\textcircled{3} \quad \begin{array}{r} 3 \\ 12 \overline{) 37} \\ \underline{36} \\ 1 \end{array}$$

$$\textcircled{4} \quad \begin{array}{r} 4 \\ 23 \overline{) 98} \\ \underline{92} \\ 6 \end{array}$$

$$\textcircled{5} \quad \begin{array}{r} 2 \\ 22 \overline{) 47} \\ \underline{44} \\ 3 \end{array}$$

$$\textcircled{6} \quad \begin{array}{r} 2 \\ 34 \overline{) 73} \\ \underline{68} \\ 5 \end{array}$$

$$\textcircled{7} \quad \begin{array}{r} 2 \\ 29 \overline{) 59} \\ \underline{58} \\ 1 \end{array}$$

$$\textcircled{8} \quad \begin{array}{r} 2 \\ 42 \overline{) 88} \\ \underline{84} \\ 4 \end{array}$$

$$\textcircled{9} \quad \begin{array}{r} 3 \\ 31 \overline{) 97} \\ \underline{93} \\ 4 \end{array}$$

$$\textcircled{10} \quad \begin{array}{r} 6 \\ 11 \overline{) 68} \\ \underline{66} \\ 2 \end{array}$$

$$\textcircled{11} \quad \begin{array}{r} 3 \\ 24 \overline{) 73} \\ \underline{72} \\ 1 \end{array}$$

$$\textcircled{12} \quad \begin{array}{r} 2 \\ 38 \overline{) 89} \\ \underline{76} \\ 13 \end{array}$$

5. わり算の筆算(2) ⑤

名前

組 番

ねらい 仮商修正がある除法計算の仕方を考える。

③ 技知

① 71÷24の計算を筆算でします。□にはあてはまる数を、()にはあてはまる言葉を書きましょう。

① 商の見当をつけます。

わる数の24を **20** とみて、71÷ **20** = **3** と見ました。

② わる数の24を20とみて、たてた商は、(**大き**) すぎました。

$$\begin{array}{r}
 3 \\
 24 \overline{) 71} \\
 \underline{72} \\

 \end{array}
 \xrightarrow{\boxed{1} \text{ 小さくする}}
 \begin{array}{r}
 \boxed{2} \\
 24 \overline{) 71} \\
 \underline{48} \\
 23
 \end{array}$$

② 次の計算を筆算でします。□にはあてはまる数を書きましょう。

$$\begin{array}{r}
 8 \\
 14 \overline{) 84} \\
 \underline{14} \\
 70
 \end{array}
 \xrightarrow{\text{1小さくする。}}
 \begin{array}{r}
 \boxed{7} \\
 14 \overline{) 84} \\
 \underline{98} \\

 \end{array}
 \xrightarrow{\text{1小さくする。}}
 \begin{array}{r}
 \boxed{6} \\
 14 \overline{) 84} \\
 \underline{84} \\
 0
 \end{array}$$

$$\begin{array}{r}
 7 \\
 13 \overline{) 72} \\
 \underline{91} \\

 \end{array}
 \xrightarrow{\text{1小さくする。}}
 \begin{array}{r}
 \boxed{6} \\
 13 \overline{) 72} \\
 \underline{78} \\

 \end{array}
 \xrightarrow{\text{1小さくする。}}
 \begin{array}{r}
 \boxed{5} \\
 13 \overline{) 72} \\
 \underline{65} \\
 7
 \end{array}$$

③ () にあてはまる言葉を書きましょう。

見当をつけた商が大きすぎたときは、商を1つずつ (**小さく**) していきます。



38

5. わり算の筆算(2) ⑥

名前

組 番

ねらい 見当をつけた商が小さすぎた場合の仕方を考える。

◎ 技 知

1 □にあてはまる数を書きましょう。

① $81 \div 16$ の計算をするときは、わる数の16を10とみる場合と、20 とみる場合がある。

〈わる数を10とみて筆算する場合〉

$$\begin{array}{r}
 \boxed{8} \\
 16 \overline{) 81} \\
 \underline{128} \\
 1
 \end{array}
 \rightarrow
 \begin{array}{r}
 \boxed{7} \\
 16 \overline{) 81} \\
 \underline{112} \\
 1
 \end{array}
 \rightarrow
 \begin{array}{r}
 \boxed{6} \\
 16 \overline{) 81} \\
 \underline{96} \\
 1
 \end{array}
 \rightarrow
 \begin{array}{r}
 \boxed{5} \\
 16 \overline{) 81} \\
 \underline{80} \\
 1
 \end{array}$$

〈わる数を20 とみて筆算する場合〉

$$\begin{array}{r}
 \boxed{4} \\
 16 \overline{) 81} \\
 \underline{64} \\
 17
 \end{array}
 \xrightarrow{\text{1大きくする}}
 \begin{array}{r}
 \boxed{5} \\
 16 \overline{) 81} \\
 \underline{80} \\
 1
 \end{array}$$

わる数の16を20 とみた方がよい。

あまりが、わる数の16より大きいので、まだひける。

② わる数を四捨五入して、商の見当をつけてから、筆算しましょう。

$$\begin{array}{r}
 \boxed{4} \\
 15 \overline{) 79} \\
 \underline{60} \\
 19
 \end{array}
 \xrightarrow{\text{1大きくする}}
 \begin{array}{r}
 \boxed{5} \\
 15 \overline{) 79} \\
 \underline{75} \\
 4
 \end{array}$$

5. わり算の筆算(2) ⑦

名前

組 番

ねらい 3位数÷2位数=1位数の除法計算の仕方を考える。

⑧ 技知

① 431÷52の計算のしかたを考えます。

()にはあてはまる言葉を、□にはあてはまる数を書きましょう。

$$\begin{array}{r}
 52 \overline{) 431} \\
 \downarrow \\
 52 \overline{) 431} \quad \square 8 \\
 \downarrow \\
 52 \overline{) 431} \quad \square 8 \\
 \underline{416} \\
 15
 \end{array}$$

① 商が何の位にたつのか考えます。

商は(**一の位**)にたてます。

② わる数の52を **50** とみて、

431 ÷ **50** をします。

③ 式の□に **8** をたてます。

④ 52× **8** をして、431の下に位をそろえて書きます。(**かける**) → **416**

⑤ 431- **416** をして、あまりを出します。

(**ひく**) → **15**

② 次の計算をしましょう。

①

$$\begin{array}{r}
 8 \\
 33 \overline{) 271} \\
 \underline{264} \\
 7
 \end{array}$$

②

$$\begin{array}{r}
 6 \\
 68 \overline{) 418} \\
 \underline{408} \\
 10
 \end{array}$$

③

$$\begin{array}{r}
 8 \\
 62 \overline{) 545} \\
 \underline{496} \\
 49
 \end{array}$$

5. わり算の筆算(2) ⑧

名前

組 番

ねらい 3位数÷2位数=2位数の除法計算の仕方を考え、筆算ができる。 (考) 技 (知)

① 654÷21の計算のしかたを考えます。()にはあてはまる言葉を、□にはあてはまる数を書きましょう。

$$\begin{array}{r}
 21 \overline{) 654} \\
 \underline{63} \\
 24 \\
 \underline{21} \\
 3
 \end{array}$$

① わる数が2けたなので、商は(百)の位にはたたない。

② 商は(+)の位にたちます。

654 ÷ 21 → 3 をたてる。

③ 十の位を計算する。

65 ÷ 21 = 3 あまり 2

一の位の 4 をおろす。

④ 一の位を計算する。

24 ÷ 21 = 1 あまり 3

654 ÷ 21 = 31 あまり 3

② 次の計算をしましょう。

①

$$\begin{array}{r}
 49 \overline{) 555} \\
 \underline{49} \\
 65 \\
 \underline{49} \\
 16
 \end{array}$$

②

$$\begin{array}{r}
 29 \overline{) 478} \\
 \underline{29} \\
 188 \\
 \underline{174} \\
 14
 \end{array}$$

③

$$\begin{array}{r}
 65 \overline{) 895} \\
 \underline{65} \\
 245 \\
 \underline{195} \\
 50
 \end{array}$$

5. わり算の筆算(2) ⑨

名前

組 番

ねらい

4位数÷2位数の除法計算の仕方を考え、計算ができる。

④(考)技知

① 2581÷32の計算のしかたを考えます。()にはあてはまる言葉を、□にはあてはまる数を書きましょう。

$$\begin{array}{r} 32 \overline{) 2581} \\ \downarrow \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 8 \\ 32 \overline{) 2581} \\ \underline{256} \\ 2 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 8 \\ 32 \overline{) 2581} \\ \underline{256} \\ 2 \end{array}$$

① 商がたつ位を決める。

商は(**十の位**)にたつ。

② 商の見当をつける。

わる数32を **30** とみて計算する。

258÷ **30** → **8** をたてる。

③ 十の位を計算する。

258÷32= **8** あまり **2**

一の位の **1** をおろす。

④ 一の位を計算する。

21 ÷32= **0** あまり **21**

だから、一の位に **0** をたてる。

2581÷32= **80** あまり **21**

② 次の計算をしましょう。

①

$$\begin{array}{r} 8 2 \\ 99 \overline{) 8132} \\ \underline{792} \\ 2 1 2 \\ \underline{198} \\ 1 4 \end{array}$$

②

$$\begin{array}{r} 7 1 \\ 39 \overline{) 2785} \\ \underline{273} \\ 5 5 \\ \underline{39} \\ 1 6 \end{array}$$

③

$$\begin{array}{r} 1 0 5 \\ 53 \overline{) 5578} \\ \underline{53} \\ 2 7 8 \\ \underline{265} \\ 1 3 \end{array}$$

5. わり算の筆算(2) ⑩

名前

組 番

ねらい わり算について成り立つきまりについて理解する。

考技(知)

① 次の□の中には数を、()の中には言葉を書きましょう。

<p>① $24 \div 8 = 3$</p> <p>↓ 4 でわる</p> <p>$6 \div 2 = \span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">3$</p> <p>↓ 2 でわる</p> <p>$3 \div 1 = \span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">3$</p>	<p>② $6 \div 3 = 2$</p> <p>↓ 5 をかける</p> <p>$30 \div 15 = \span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2$</p> <p>↓ 10 をかける</p> <p>$300 \div 150 = \span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2$</p>
---	---

③ わり算では、(わる) 数と (わられる) 数に
 同じ数を (かけて) も、同じ数で (わつ) ても、
 その商は変わらない。

② 次の□の中にあてはまる数を書いて、答えを求めましょう。

<p>① $400 \div 200 = 4 \div \span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2$</p> <p>$= \span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2$</p>	<p>② $60 \div 15 = \span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">12 \div 3$</p> <p>$= \span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">4$</p>
<p>③ $250 \div 50 = \span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">5 \div 1$</p> <p>$= \span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">5$</p>	<p>④ $8000 \div 200 = 80 \div \span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2$</p> <p>$= \span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">40$</p>

5. わり算の筆算(2) ①

名前

組 番

ねらい

わり算について成り立つきまりを使って計算ができる。

考(技)知

① 2500÷600を、わり算のきまりを使って計算しています。

□の中に数を書きましょう。

$$\begin{array}{r}
 \boxed{4} \\
 6 \cancel{0} \cancel{0} \overline{) 25 \cancel{0} \cancel{0}} \\
 \underline{24} \\
 1
 \end{array}$$

① わられる数とわる数の0を $\boxed{2}$ こずつ消して筆算します。

② 商は $\boxed{4}$ になります。

③ あまりは0を2こ消したので、その分だけ0をつけたして、 $\boxed{100}$ になります。

② わり算のきまりを使って、くふうして計算しましょう。

① $1800 \div 300$
 $= 18 \div 3$
 $= 6$

② $2400 \div 800$
 $= 24 \div 8$
 $= 3$

③ $6000 \div 1200$
 $= 60 \div 12$
 $= 5$

④ $4700 \div 500$
 $= 47 \div 5$
 $= 9 \text{ 残り } 200$

⑤ $300 \text{兆} \div 60$
 $= 30 \text{兆} \div 6$
 $= 5 \text{兆}$

⑥ $15 \text{億} \div 5 \text{億}$
 $= 3 \text{億} \div 1 \text{億}$
 $= 3 \text{億}$

44

5. わり算の筆算(2) ⑫

名前

組 番

ねらい 身の回りの事象を数理的に捉えて、除法の学習を活用して問題を解決することができる。 (考) 技知

みさとさんは、お花作り用の紙とストローと葉っぱ用の紙を使って、花たばをできるだけたくさん作ろうと思いました。

花たばを1つ作るためのざいりょうは、次のとおりです。

花たば1つ分のざいりょう

- ・花紙 60まい
- ・ストロー 12本
- ・葉っぱ 24まい

みさとさんは、さっそくどれくらいざいりょうがあるのか調べてみました。

- ・花紙(赤) 532まい
- (黄) 416まい
- (白) 704まい
- (ピンク) 396まい
- ・ストロー 500本パック1こと254本
- ・葉っぱ 862まい

① 花紙だけなら、それぞれの色の花たばは、いくつできるでしょうか。

①(赤) <式> $532 \div 60 = 8$ あまり 52 答え (8 たば)

①(黄) <式> $416 \div 60 = 6$ あまり 56 答え (6 たば)

①(白) <式> $704 \div 60 = 11$ あまり 44 答え (11 たば)

①(ヒ) <式> $396 \div 60 = 6$ あまり 36 答え (6 たば)

② ストローと葉っぱは、花たばいくつ分あるでしょうか。

ストロー <式> $754 \div 12 = 62$ あまり 10 答え (62 たば)

葉っぱ <式> $862 \div 24 = 35$ あまり 22 答え (35 たば)

③ 花たばは、いくつできるでしょうか。

・赤の花たば (8 たば) ・黄の花たば (6 たば)

・白の花たば (11 たば) ・ピンクの花たば (6 たば)

④ 花たばは、ぜんぶで何たば作れるでしょうか。 (31 たば)

45

6. 式と計算 ①

名前

組 番

ねらい

加法や減法の場面を、言葉の式をもとに () を用いて
1つの式に表す仕方を考える。

④ 技 知

① ①～③の問題場面に合う式を、ア①ウからえらんで線でむすびましょう。

① 1000円持って^か買い物に行きました。
やおやで240円のじゃがいもを1ふくろ
ろ買い、肉やで390円のふた肉を1パッ
ク買いました。
おつりはいくらでしょうか。

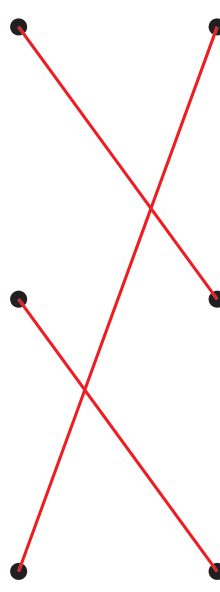
② 1000円持って買い物に行き、240円のお
かしを買って、おばあちゃんの家に行
ったら、390円おこづかいをもらいま
した。
何円もっているでしょうか。

③ 1000円持ってスーパーマーケットに
行き、240円のフランスパン1つと、
1ふくろ390円のソーセージを買いま
した。
おつりはいくらでしょうか。

ア $1000 - (240 + 390)$

① $1000 - 240 - 390$

ウ $1000 - 240 + 390$



② 次の2つの式を1つの式にまとめましょう。

① $190 + 630 = 820$
 $1500 - 820 = 680$ \rightarrow $1500 - (190 + 630)$

② $510 - 420 = 90$
 $830 + 90 = 920$ \rightarrow $830 + (510 - 420)$

③ $750 + 650 = 1400$
 $180 + 1400 = 1580$ \rightarrow $180 + (750 + 650)$

④ $120 + 270 + 310 = 700$
 $1000 - 700 = 300$ \rightarrow $1000 - (120 + 270 + 310)$

ねらい () を用いて1つの式に表したり、() を用いた式の答えを **考****技**知 求めることができる。

① () を使って1つの式に表して、答えを求めましょう。

- ① 500円玉を1つ持って、350円のケーキと、120円のプリンを1つずつ買いました。残っているお金はいくらでしょうか。

$$\begin{aligned} \text{〈式〉 } 500 - (350 + 120) &= 500 - 470 \\ &= 30 \end{aligned}$$

答え 30円

- ② 450円のシャープペンと150円のけしゴムのセットを1つ買って、800円はらいました。おつりはいくらでしょうか。

$$\begin{aligned} \text{〈式〉 } 800 - (450 + 150) &= 800 - 600 \\ &= 200 \end{aligned}$$

答え 200円

- ③ サンドイッチを作ろうと思って、390円のパンと、280円のハムを買おうと思ったら、パンは20円引きでした。合計金がかはいくらだったでしょうか。

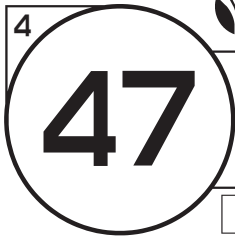
$$\begin{aligned} \text{〈式〉 } (390 - 20) + 280 &= 370 + 280 \\ &= 650 \end{aligned}$$

答え 650円

② 次の□にあてはまる数を書きましょう。

$$\begin{aligned} \text{① } 2000 - (590 + 210 - 130) &= \boxed{2000} - (\boxed{800} - \boxed{130}) \\ &= \boxed{2000} - \boxed{670} \\ &= \boxed{1330} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{② } 900 - (360 + 240) - 150 &= \boxed{900} - \boxed{600} - \boxed{150} \\ &= \boxed{300} - \boxed{150} \\ &= \boxed{150} \end{aligned}$$



6. 式と計算 ③

名前

組 番

ねらい

乗法と加法や除法と減法が混じった式の計算ができ、
答えを求めることができる。

考(技)知

① 次の計算をしましょう。

$$\begin{aligned} \textcircled{1} \quad & (18 - 3) \times 6 \\ & = 15 \times 6 \\ & = 90 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \textcircled{2} \quad & (15 + 23) \times 6 \\ & = 38 \times 6 \\ & = 228 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \textcircled{3} \quad & 500 \div (25 \times 2) \\ & = 500 \div 50 \\ & = 10 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \textcircled{4} \quad & 50 \times (27 - 16) \\ & = 50 \times 11 \\ & = 550 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \textcircled{5} \quad & 24 \div (12 - 4) \times 5 \\ & = 24 \div 8 \times 5 \\ & = 3 \times 5 \\ & = 15 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \textcircled{6} \quad & 99 \div (5 + 6) \times 8 \\ & = 99 \div 11 \times 8 \\ & = 9 \times 8 \\ & = 72 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \textcircled{7} \quad & (36 + 45) \div 9 \times 13 \\ & = 81 \div 9 \times 13 \\ & = 9 \times 13 \\ & = 117 \end{aligned}$$

② 1まい100円の絵はがきを5まいと、54円の切手を5まい買いました。

だいたいはあわせていくらですか。

() を使って、1つの式に表して答えを求めましょう。

$$\begin{aligned} \text{〈式〉} \quad & (100 + 54) \times 5 = 154 \times 5 \\ & = 770 \end{aligned}$$

答え 770円

ねらい 乗法や除法は () がなくても、加法や減法より先に計算することが分かり、計算できる。 考(技)(知)

① 次の () にあてはまる言葉を書きましょう。

＋、－、×、÷のまじった式では、(**かけ算**) や (**わり算**) は、() がなくても、ひとまとまりとみて、(**先に**) 計算します。

② 次の問題を、1つの式に表して答えを求めましょう。

① みかんが20こありました。4人の家ぞくが1人2こずつ食べると、みかんは何こ残りますか。

$$\begin{aligned} \text{〈式〉 } 20 - 2 \times 4 &= 20 - 8 \\ &= 12 \end{aligned}$$

答え 12こ残る

② パン屋で、1こ120円のメロンパンを2こ、150円のチョココロネを1こ買いました。代金はいくらでしょうか。

$$\begin{aligned} \text{〈式〉 } 120 \times 2 + 150 &= 240 + 150 \\ &= 390 \end{aligned}$$

答え 390円

③ 計算しましょう。

$$\begin{aligned} \text{① } 16 + 24 \times 2 \\ &= 16 + 48 \\ &= 64 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{② } 24 - 15 \div 3 \\ &= 24 - 5 \\ &= 19 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{③ } (5 + 25 \times 4) + 35 \\ &= (5 + 100) + 35 \\ &= 105 + 35 \\ &= 140 \end{aligned}$$

6. 式と計算 ⑤

名前

組 番

ねらい

四則の混合した式や、() を用いた式の計算順序がわかり、計算ができる。

考(技)(知)

① 次の () にあてはまる言葉や記号を書きましょう。

計算の順序

- ふつうは (左) から順に計算します。
- (()) があるときは、 (()) の中を先に計算します。
- +、-、×、÷ がまじっているときは、
(×)、(÷) を先に計算します。

② 次の式の中で、〈例〉のように㉠～㉣の計算の順序を考えて、□の中に記号を書きましょう。

〈例〉 $15 \times (32 + 18) - 1000$
㉠ ㉡ ㉢

㉠ → ㉡ → ㉢

① $8 + 36 \div 9 \times 8$
㉠ ㉡ ㉢

㉡ → ㉢ → ㉠

② $(12 - 72 \div 8) + 3$
㉠ ㉡ ㉢

㉡ → ㉠ → ㉢

③ $(36 + 45) \div 9 \times 3$
㉠ ㉡ ㉢

㉠ → ㉡ → ㉢

③ 次の計算をしましょう。

① $8 \times 2 - 36 \div 6$
 $= 16 - 6$
 $= 10$

② $6 \times (12 + 36 \div 12)$
 $= 6 \times (12 + 3)$
 $= 6 \times 15$
 $= 90$

6. 式と計算 ⑥

名前

組 番

ねらい 乗法と加法、減法の分配法則や結合法則を理解する。

考技 ⑨

① ○△□を使って、式を書きましょう。

① 分配のきまり $(\bigcirc + \triangle) \times \square = \bigcirc \times \square + \triangle \times \square$

$(\bigcirc - \triangle) \times \square = \bigcirc \times \square - \triangle \times \square$

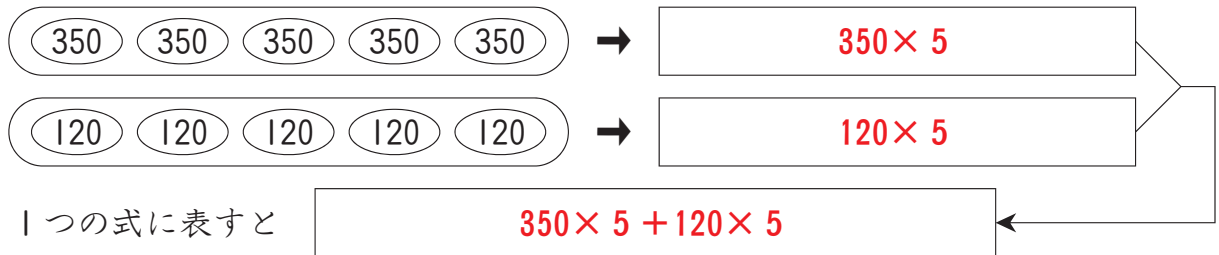
② 交かんのきまり $\bigcirc \times \triangle = \triangle \times \bigcirc$

③ 結合のきまり $(\bigcirc \times \triangle) \times \square = \bigcirc \times (\triangle \times \square)$

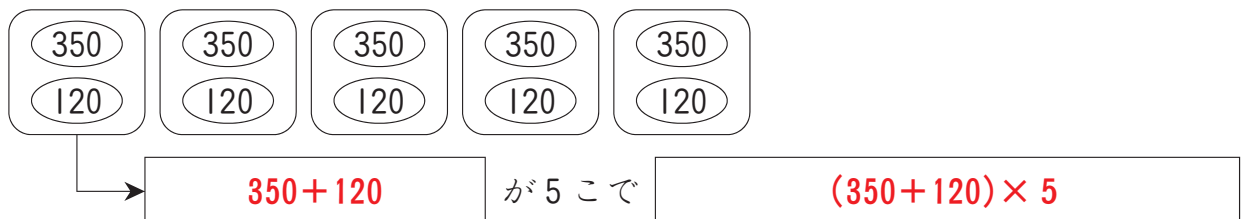
② 図に表された式を書きましょう。

① 1こ350円のケーキと、1こ120円のプリンを5こずつ買うときの代金を求めましょう。

<考え方①>



<考え方②>



ねらい 計算のきまりを使って工夫して計算することができる。

考(技)知

① 次の□にあてはまる数を書きましょう。

$$\textcircled{1} \quad 28 + 62 = 62 + \boxed{28}$$

$$\textcircled{2} \quad 9 \times 24 = \boxed{24} \times 9$$

$$\textcircled{3} \quad 55 + 27 + 23 = \boxed{55} + (27 + 23)$$

$$\textcircled{4} \quad 38 \times 4 \times 25 = 38 \times (\boxed{4} \times 25)$$

$$\textcircled{5} \quad (15 + 23) \times 6 = 15 \times \boxed{6} + 23 \times \boxed{6}$$

$$\textcircled{6} \quad 18 \times 5 - 13 \times 5 = (\boxed{18} - 13) \times 5$$

② 次の□にあてはまる数を書きましょう。

$$\begin{aligned} \textcircled{1} \quad 102 \times 6 &= (\boxed{100} + \boxed{2}) \times 6 \\ &= \boxed{100} \times 6 + \boxed{2} \times 6 \\ &= \boxed{600} + \boxed{12} \\ &= \boxed{612} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \textcircled{2} \quad 36 \times 25 &= (\boxed{9} \times \boxed{4}) \times 25 \\ &= \boxed{9} \times (\boxed{4} \times 25) \\ &= \boxed{9} \times \boxed{100} \\ &= \boxed{900} \end{aligned}$$